

卷别: [A]

适用专业	考试科目	考试时间
日本语言文学	综合	

特別声明: 答案一律答在答题纸上, 答在本试卷纸上无效。

言語 (総点: 50 点)

問題一、次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(20 点)

「の」は他の格助詞が動詞や形容詞へ続いていく語句を作るのに、ひとり名詞へ続いていく語句を作る点で違っている。そういう格助詞は「の」一つしかない。随分いろいろな意味のつながり方をする。「いもうとの結婚」は「いもうと (A) 結婚する」で「A」に相当する「の」格であり、「衣料品の販売」は「衣料品 (B) 販売すること」で「B」の意味を含んでいる。

『新ことばのくずかご』に出ていたが、ある人が猫にやる①カンヅメを買おうと、「猫のカンヅメをください。」と言ったら、「猫のカンヅメなんてありませんよ。」と言った。そう。猫の肉のカンヅメにしたものと解したらしい。

ある家に渋沢栄一を描いたり つばな ②ショウゾウガがあった。誰が描いた絵かと思ひ、主人に「これはどなたの絵ですか」と尋ねた。と、主人は答えたそう。あなたはこの人を御存知ないんですか。このひとは渋沢栄一ですよ。」つまり、主人は 「ひ」 と解釈したのである。この場合には、こう答えるであろう。「これはわたしの絵ですよ」

これらは「がの」、「をの」という結びつきがないために生じる行き違いだ。「どなたをの絵」「どなたがの絵」と言えないのは残念で、日本語の③ ケツカン の一つである。川端康成の『雪国』のはじめのところに、次のような「の」があるが、④ ゴウイン な結びつけ方であり、簡潔な表現である。

本試題共 8 頁、此頁は第 1 頁

また、
yuna

ごういん
はな
さし

結婚

(1) 和服に⑤ガイトウの駅長は…

(2) 手の明かりを横に向けて…

「の」は用法が広く、意味が曖昧になるために「—による」「—のための」のような言い方が増えてきたのは喜ぶべきである。

問一 AとBに適切な助詞を書き入れなさい。(4点) ✓

問二 横線語①～⑤の片仮名を漢字に書き直しなさい。(5点) ✓

問三 () Cにどんな表現を入れたらいいでしょうか。(3点) ✓

問四 同じ格助詞の「の」でも前後のことばによって関係がいろいろ違って来る。次の語句の中の「の」がどんな関係を示すか答えなさい。(8点)

a 国の財産 b 日本語学部^{8.3}の学生 c 教授の山田先生 d 晴れの日

問題二、次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(16点)

1、日本語はたいてい語尾で勝負する。「…ではありません」となるか、「…であります」となるかまで、全体の否定、肯定すらわからない。それまではサスペンスの状態におかれる。それで、前にものべたが、日本人は意識していないけれども、はじめの方のことばには充分注意しないくせがある。終わりの方が大切だという気持ちがあるからであろう。重要な部分があとの方へ置かれている言語を使って生活していれば、そう
なって当然かもしれない。

(外山滋比古『英語の発想・日本語の発想』)

問い1 文中の「そうなって当然」とは、どうなって当然だという意味か。(5点)

- ① 語尾を聞くまでサスペンスの状態におかれて
- ② 語尾を意識しなくなって
- ③ / 重要な部分をあとの方に置くようになって
- ④ はじめの方のことばに充分注意しなくなって

②現代日本語の当用漢字は1945字である。×

③指示語は、実際にそこにある生物などを指したりするほか、「それ」のように、文脈中の語句や、文、文の集まり、段落などによってあらわされる、かなり複雑な内容を指すこともある。✓

④植木の言語過程説は明治以来の国語学の近代西洋言語学化に対する一つの批判であり、伝統的な言語研究への回帰である。✓

問題四、次の言葉を簡単に説明しなさい。(4点)

1 モダリティ (2点)

2 対義語 (2点)

文学 (総点: 50点)

問題五、次の線を引いたところに適当な言葉を入れなさい (共20点)

1 『万葉集』は現存最古の歌集である。作者は、天皇から下層の人々にいたるさまざまな階層に及んだが、編者とされる人は 大友麻呂 だと言われている。基本的な構成は _____ の三大部立である。いろいろな歌体を持っていて、その中の九割が 短歌 である。

2 和銅五年太安万侶によって編纂された 万葉集 は、漢字の音訓をまじえた変則の漢文体による現存最古の史書。天平勝宝三年淡海三船らによって編集された _____ は、宴会や遊覧の時の作が多く、大部分は五言詩、現存最古の漢詩集。

3 日本では、現存している最古の物語は 源氏物語、編年体で書かれている最初の歴史物語は 古事記。それに対して、現実的で、女性の立場を装って仮名で書かれた 紫の日記 は、日記文学への道を切り開いた。

問題六、後ろにあげた作品の中から各作者に属するものを選び、その番号を () に入れなさい。また、作者の名前の読み方を書きなさい。(20点)

1 井原西鶴 (C)

3 樋口一葉 (B D)

5 夏目漱石 (L)

7 葛西善蔵 (F)

9 川端康成 (H)

2 松尾芭蕉 (B)

4 田山花袋 (A A)

6 志賀直哉 (J)

8 小林多喜二 (E)

10 谷崎潤一郎 (G)

作品: A『布団』 B『暗夜行路』 C『蟹工船』 D『たけくらべ』

E『好色一代男』 F『子連れ狼』 G『奥の細道』 H『伊豆の踊り子』

I『我輩は猫である』 J『刺青』

問題七、次の言葉を説明しなさい (10 点)

1 私小説

2 五山文学

社会 文化 (総点: 50 点)

問題八、次に挙げられる作者名と作品名を線で正しくつなげなさい。(14 点)

D 1 新渡戸稲造

A 『ザ・ジャパニーズ』

F 2 李御寧

B 『日本管窺』

E 3 R・ベネディクト

C 『日本論』

C 4 周作人

D 『禅と日本文化』

A 5 ライシャワー

E 『菊と刀』

G 6 戴季陶

E 『武士道』

B 7 鈴木大拙

G 『「縮」志向の日本人』

問題九、文章の後に挙げられる言葉を選んで、文中の空白を埋めなさい。(16 点)

1. 生産と生活の歴史伝統から見ると、日本は、(①) に属し、(②) と大きな差異を示している。農耕文化圏は、世界においてその分布が広く、またそれを麦類

栽培圏と稲作栽培圏とに分けることが出来る。欧州、中国の北部...が大体 (b) (3)) に属しているが、...、日本、南アジアと東南アジアは、気候が温暖多湿で (d) (4)) に属している。

a 麦類栽培圏、b 遊牧文化圏、c 農耕文化圏、d 稲作栽培圏

2、(59) は 700 年に及ぶ日本の伝統文化である。12 世紀の終りに、中国で (6) (h)) を学んだ僧、榮西が、茶の種と...を日本に持ち帰った。美味しいものを食べ、高価な道具を楽しむ茶の湯に、精神的な高まりを与えたのが、(7) (e)) だ。その流れを汲んだ (8) (f)) により、16 世紀末に、茶の湯の心も形も完成した。

a 禅宗、f 千利休、g 茶の湯、h 村田珠光

問題十、次の文章を読んで、後の問いを答えなさい。(20 点)

日本人は、他のどの国の人々よりも集団志向が強い。これは日本が農耕社会であったことに由来する。

日本で稲作農耕は西暦紀元の前後に始まったと考えられている。弥生時代(紀元前 3 世紀から紀元後 3 世紀頃)以降、村落では定住が行われるようになった。村落社会では「家」が存続して、閉鎖的な人倫共同体(倫理規範を伴う人間関係)が形成された。そこでは感情的、情緒的な人間関係が形成されていった。

日本の伝統的な家族関係は「家」という制度に基づいていた。そこでは「家」の存続が重視され、血統が絶えた場合、養子という擬制的親子関係を作ることによって「家」は維持された。

村落の住民たちは、先祖からの系譜と親戚関係を大切にして、さながら家族のように結合しあって暮らしてきた。その中で人々の相互間には直観的な理解が成り立ち、とりたてて自己主張したり、村の掟を破ったりすると村に住んでいられなくなった。

そこでは封鎖的な社会集団が形成され、しかも自ずから上下の人間関係が出来てい

た。そこでは集団の利害が個人の行動を決定する基準となっていた。半面、個人としての自覚は弱いものにならざるを得なかった。

稲作農民のこの思惟方法は、例えば座順・席順(座る順番)一つをとってもよく現れている。閉鎖的な社会共同体の中では座順にきちんとした規則があって、個人でこれを破ることはできない。今日でも日本人は座順を気にする。

「家」は、厳しい経済生活を前提とした生活の共同防衛組織であった。しかし、戦後の高度経済成長に伴い、農村の都市化や家内工業の企業化といったように、社会組織は変動していった。それにもかかわらず日本人の思考方式は、社会構造との相関関係において、人間関係を重視するという従来の傾向を脱することがなかった。

今日では、企業や各種の組織体が、従来の「家」の機能を果たしている。日本の「家」の集団の特色は、大企業を社会集団としてみた場合にも現れている。終身雇用制によって、従業員により封鎖的な社会集団が作られる。一方、会社は従業員の面倒を最大限にみて、金銭給付以外でもさまざまな給付を行う。

企業では多くの場合、低家賃で社宅を提供し、社員旅行を行い、家族参加の運動会を催したりする。結婚や出産などの慶祝金や弔慰金の制度がある。また、結婚式や葬式では会社の上司、同僚、後輩が参加して、一定の役割を演ずる。従業員の私生活にわたって会社の機能が入りこんでいる。

多くの場合いったん会社に採用されたら、大多数の人が定年(55~60歳位が多い)まで働く。この間、能力の向上と年功とによって賃金の上昇と地位の上昇(昇進)を受ける。年功序列というのは、勤続年数によって地位や賃金が決められるという制度である。日本の集団においては、その集団に入ってから年数がその人の地位と発言権を決定する重要な要因になっている。

スビッチ

日本社会では、会社に所属する期間が意味を持つばかりでなく、就職する時期が大

切である。人生の早い時期において集団の中での基礎が形成されるからである。(終)

問い1、線の書いた文にあたる三字熟語を一つ書きなさい。(5点)

問い2、日本人の集団意識について、約500字の文章を書きなさい。(15点)